

平成 25 年 5 月 30 日

 青竹細工道場

竹細工用のひごつくりを簡単にする道具の考案

近年、自然志向の高まりから竹細工が見直されつつある中、趣味として竹細工を始めたという人が増えてきています。竹細工の楽しみは、普段の生活で愛用できる竹かごなどをごく身近にある竹からつくりだせるところにあります。しかしながら、竹を加工する技術の奥は深く、また初心者が最初に越えなければならない技術的なハードルはかなり高いものです。

竹細工の世界に「竹割り三年」という言葉があります。これは竹ひごつくりの難しさを表した言葉で、「思うような竹ひごをつくれるようになるまで三年はかかりますよ」と言っているものです。竹ひごつくりの難しさは鉋の扱いの難しさでもあり、竹を一定の幅で割ったり、あるいは一定の厚みで剥いだりするのは初心者には大変難しいものです。さらに竹には硬い節があり、加工をより困難にしています。

竹細工のカルチャースクールを行っている青竹細工道場では、受講生への指導法の研究の中で、このほど初心者でもわずかな訓練期間で竹ひごつくりができるようになる画期的な竹ひごつくりの道具を考案いたしました。

新考案の竹ひごつくり道具の構造は至ってシンプルで、木製の台の上部に加工用の金物を取り付けてあるだけのものです。(写真をご参照ください) 使い方はまずこの道具を作業いすに C 型万力などで固定し、道具を太ももで押さえつけるように横向きに腰掛けます。次に加工する竹に鉋で割り込みを入れ、この道具の金物部に竹の割り込み部を挟み、両手を使って割ったり、剥いだり(厚みを薄くする)するものです。

割る幅や、剥ぐ厚みを均一にするには多少の訓練を要しますが、鉋だけで行う従来の方法に比べると圧倒的に短期間で習熟できる可能性を持っています。

青竹細工道場では、竹細工愛好者の増加による放置竹林減少を願い、日本各地の竹細工愛好会への紹介や技術交流を行うなど、この新道具の利用拡大に取り組んでまいります。

新道具の特長

- ① 両手が使えるため初心者や非力な女性でも、持っている力を効率的に利用することができる
- ② 加工点を真上から見ながら作業することができるため精度の高い加工が可能
- ③ 楽な姿勢(作業用のベンチ等に腰かけた状態)で道具を扱うことができる
- ④ 鉋による加工に比べ、切りキズ、腱鞘炎等のリスクが低減する
- ⑤ 鉋による加工で最も難しいとされる厚さ 1 ミリメートル未満、幅 1 センチメートル以上、長さ 4 メートルといったざるの縁を巻くためのひごつくりも比較的短期間で習熟することができる

以上

<お問合せ先>

青竹細工道場代表 八柳 良介

電話 0276-88-2142

携帯電話 090-4721-8763

代表プロフィール

昭和 26 年生まれ東京出身、56 歳で三洋電機㈱を退職後竹細工を習得。平成 23 年 4 月からジョイフル本田のカルチャースクールで竹細工教室「青竹細工道場」を開講。平成 24 年 1 月には地元邑楽町に竹細工愛好会「楽竹会」を立ち上げる。「青竹細工道場」の紹介ホームページは <http://tikuyu.art.coocan.jp/>

竹ひごつくり道具の外観



竹割り作業

